

# IWATE あんしんサポート事業

## 地域における公益的な取組と 社会福祉法人

### 地域における 公益的な取組の経緯

「社会福祉法等の一部を改正する法律」（以下「改正法」）が、平成28年4月1日施行されました。改正法の柱の1つは「社会福祉法人制度の改革」であり、「地域における公益的な取組を実施する責務」が創設されました。

これにより、社会福祉法人以外の供給主体では対応が困難で、既存の制度では対象とならない福祉ニーズに対して、社会福祉法人の公益的な取組が求められることになりました。

### 「社会福祉充実残額」及び「社会福祉充実計画」との関連性

改正法では、社会福祉法人が保有する財産について、事業継続に必要な財産（控除対象財産）を控除した上で、再投下が可能な財産（社会福祉充実残額）の明確化が求められています。

社会福祉充実残額が生じる場合は、当該法人が策定する社会福祉充実計画に基づき、既存事業の充実や新たな取組に有効活用することが必要になります。その一つとし

てあげられるのが「地域公益事業（第55条の2第4項第2号）」です。

### IWATEあんしんサポート事業

「地域公益事業」とは別に、社会福祉充実残額の有無に関わらず、全ての社会福祉法人に対し「地域における公益的な取組（第24条第2項）が求められることになりました。

社会福祉法人の協働による地域における公益的な取組として、岩手県社会福祉協議会・社会福祉法人経営者協議会（熊谷茂会長）は、平成28年度から「IWATEあんしんサポート事業」を実施しています。高齢者や障がい者等の福祉

### IWATEあんしんサポート事業の推移

|                  | 平成 28 年度 | 平成 29 年度<br>(11 月末現在) |
|------------------|----------|-----------------------|
| 登録法人数<br>(法人)    | 35 法人    | 62 法人                 |
| 相談員数<br>(人)      | 61 人     | 112 人                 |
| 相談件数<br>(件)      | 93 件     | 72 件                  |
| 1 か月あたりの<br>相談件数 | 7.8 件    | 9.0 件                 |

施設運営を行う県内の社会福祉法人が、訪問相談や現物給付等で生活に困窮する方々などを支援しています。

同事業の特徴は、相談があった当日でも対応できる迅速さと柔軟さです。また、見守ることが主だったケースにも、独自の財源を活かした、より効果的な支援が可能になりました。相談件数は増加傾向にあり、登録法人を拡大、相談員を増員し対応しています。

岩手県社会福祉協議会・社会福祉法人経営者協議会では、生活に困窮する方々の窮状に寄り添い、さらなるニーズの掘り起こしを目指しています。

### 地域における 公益的な取組が指すもの

地域における公益的な取組は、地域の課題の存在を、より多くの住民に知ってもらえることに役立ちます。また、実施法人職員が地域に貢献できることで、職業意識やモチベーションの向上、ひいては福祉サービスの質の向上にもつながっていきます。

社会福祉法人が地域に向けて活動することは、地域住民のためだけではなく、法人にとっても得るものがあると言え、より多くの法人が公益的な取組を実施することが期待されています。

社会福祉法人は、積極的に地域共生社会づくりにコミット（関係・参加）していくことで、これまで以上に地域にとつてかけがいのない存在になっていきそうです。

### IWATEあんしんサポート事業相談事例

| 相談内容  | 対応   |
|---|--|
| 40代の親と子2人の3人世帯。子どもは専門学校生と高校生。親がうつ病のため就労不可となり、高校への送迎のガソリン代がない。障害年金の受給が見込めるが、申請に必要な診断書代がない。 | 高校への送迎について検討の結果、自力通学が可能であることから、自宅から乗車駅までの通学用定期を現物給付し、降車駅から高校までの通学用自転車2年間貸与。また、障害年金診断書代を現物給付。 |
| 50代の独居世帯。親の借金で収入が一部差し押さえられ、月50,000円程度の就労収入で生活。副業のアルバイトを探しているが、就職活動や通勤に必要なガソリンを購入できない。     | 無料法律相談やハローワークへの同行支援のほか、ガソリンを現物給付。  |
| 70代の独居世帯。月27,000円の年金のみで生活。食料は姉妹から援助を受けているが、高齢のため、これ以上の支援は困難。ガスコンロと給湯器が故障しており、灯油もない。       | ガスコンロと灯油を現物給付し、生活保護制度へのつなぎを検討。   |

# 就労準備活動の場を開拓、提供

「就労準備ボランティア」を  
就労の場へとつなげたい

奥州市水沢区の社会福祉法人愛護会は、「保育」「障がい者援護」「障がい者地域生活援助」「長寿福祉」など5事業部会（18事業所）を運営しています。

法人本部の高台に建つ「愛の塔」には、山本有三著「路傍の石」の一節「たった一人しかいない自分を たった一度しかない人生を 本当に生かさなかつたら 人間生まれた甲斐がないじゃないか」の一文が刻まれています。これが愛護会設立の精神であり、施設経営



「IWATE あんしんサポート事業」は  
法人自らの使命や役割を改めて考える契機となっています

の信条となっています。

同法人は平成27年12月に「IWATE あんしんサポート事業」の前身である「地域公益活動推進事業準備会」に加盟し、担当相談員（あんしんサポート相談員）数人を配置しています。現在、就労準備ボランティア事業として対象者1名を受け入れ、奥州市社会福祉協議会などと連携して、就労準備活動の場を提供しています。

奥州地域はサポート事業加盟地域法人の中でも相談数が多いことで知られ、今年度の相談件数は16件に及んでいます。

サポート事業は奥州市社会福祉協議会と連携して進められ、従来の福祉制度の枠組みだけでは捉え



社会福祉法人愛護会  
及川 紀美子 理事長

られない経済的困窮世帯への支援、ひきこもりなどの解決に向けて支援などに当たっています。

現在、就労準備ボランティア（受け入れ定員数は6名）として、男性1名を受入れています。事前に本人の希望を調査したうえで週4回程度（1日4時間）、委託契約している野菜加工場などで袋詰め作業などに従事しています。

## 法人の持つ

### 使命や役割を再認識しながら

佐藤美保相談支援専門員は「社会や地域の福祉課題が多様化し複雑化している中で、法人の使命や役割を再認識しながら就労準備ボランティアの方を受け入れています。こうした地域公益（社会貢献）活動を進めるために、昨年12月に第一回「奥州地域・金ヶ崎地域ネットワーク会議」を開催し、法人間の連携を図ったところだ」と話



愛護会障害者相談支援センター  
佐藤 美保 相談支援専門員

しています。

また、就労準備ボランティア事業を担当している佐野峯崇主任就労支援員は「この事業によって利用者本人の就労意欲の向上につながるのと同時に奥州市社会福祉協議会などの関係機関との連携強化にもなります。また、職員自身も法人の公益的な取り組みに参画してもらおうことにより職員の資質の向上につながります」と話しています。

及川紀美子理事長は「個々の社会福祉法人は人材不足など深刻な課題を抱えています。多くの法人がサポート事業に加わり、協働化していくことが大切だと思います。現在、県南ブロック内（奥州・金ヶ崎）のつながりも強まっています。サポート事業は法人自らの使命や役割を改めて考える契機にもなることから、加盟法人数を増やすことが大切だと思います」と強調しています。



障がい者支援施設静山園  
佐野峯 崇 主任就労支援員

# 法人の志の高さを示す事業に

## 就労準備ボランティア (中間的就労) について

みちのく大寿会は「わたしたちは、故郷（ふるさと）の笑顔を守る法人となります」を理念に平成2年に設立し、職員数は90人です。岩手県社会福祉協議会経営者協議会が取組む「I W A T E あんしん



特別養護老人ホーム久慈平荘の職員

## 法人の使命と役割を再認識しながら 就労準備ボランティアを受け入れています

サポート事業」の事業目標に▽「生活困窮世帯等への支援」▽「生きづらさ」を感じる子どもたちの居場所づくり▽「就労準備活動の場の開拓」の3つが掲げられています。

現在、モデル事業で実施している「就労準備ボランティア」(中間的就労)は、県社協及び二戸市社協と連絡調整会議などを開催後、昨年12月からひきこもりの対象者Aさん(男性31歳)を受け入れ、週1回(10時~12時)、施設内の空気清浄機25台のフィルター清掃に従事しています。法人では交通費及び昼食用弁当を支給しています。

2回目(1月8日)の就労準備ボランティアでは、不明なことは



社会福祉法人みちのく大寿会  
特別養護老人ホーム久慈平荘  
野田 信雄 理事長・施設長

担当職員に聞くなど、作業の流れを把握しはじめました。慣れてきたせいか対象者の表情が生き生きと変化してきました。

これからの課題としては、フィルター掃除のほかにも容易にできる作業を割り出し、本人の自信を醸成しながら、3か月の期間で就労に結びつけたいと考えています。

## 法人の志の高さを示す あんしんサポート事業

野田信雄理事長は「就労準備ボランティア支援を行う中で、法人の職員一人ひとりがその使命や役割を認識してきました。事業を進める上で大事なことは、社会福祉法人が持つ志の高さではないでしょうか。事業の本格実施に向けてバックアップを惜しみません」と話しています。



特別養護老人ホーム久慈平荘  
野田 大介 副施設長



就労準備ボランティアを行う特別養護老人ホーム久慈平荘

